

令和5年6月14日

担当課	保健医療介護部 保健医療介護総務課
内線	3016
直通	092-643-3237
担当	山部、田尻

## 福岡赤十字病院の医師が医療支援事業によるレバノン共和国派遣に伴い 出発前に服部知事を表敬訪問します！

福岡赤十字病院の医師がレバノン共和国へ派遣されることに伴い、出発前の6月20日に、派遣医師が日本赤十字社福岡県支部長である服部知事を表敬訪問します。

今回派遣される松田医師は、パレスチナ赤新月社が運営する同社レバノン支部における病院の医療の質の標準化や、感染対応の向上、多数傷病者の受入体制の構築、診断能力の向上等を目的とした医療技術指導に従事します。

- 1 日時 令和5年6月20日（火）15時00分～15時15分
- 2 場所 特別会議室（県庁行政棟8階南棟）
- 3 来訪者
  - (1) 派遣者  
福岡赤十字病院 医師 松田 圭央（まつだ かおう）氏  
（派遣期間・国）  
令和5年7月3日～令和5年10月19日 レバノン共和国
  - (2) 同席者  
福岡赤十字病院 副院長 永井 英司（ながい えいし）氏
- 4 対応者 日本赤十字社福岡県支部 支部長 服部 誠太郎（福岡県知事）
- 5 次第
  - (1) 表敬者紹介
  - (2) 表敬者挨拶
  - (3) 知事挨拶
  - (4) 歓談
  - (5) 記念撮影

※終了後、松田医師への取材が可能です。

## 国際活動「海外派遣」に伴う現地状況について

### 1. 現地（レバノン）の状況について

1948年のイスラエル独立宣言以降、同地に居住していたパレスチナ人が隣国に避難せざるをえなくなり、以来75年間帰還のめどが立っておらず、レバノンには48万人以上の難民が暮らしています。これはレバノン国内の6人に1人が難民となっている状況です。レバノン国内には12か所の難民キャンプがありますが、決して生活環境が良いわけではありません。

また、2019年10月以降、レバノンは国際財政の破綻・経済危機の混乱に新型コロナウイルス感染症の影響も重なり、日常生活では半日以上の停電やガソリン等燃料不足等、社会インフラの維持すら困難な状態に陥っております。

さらに、医療を取り巻く環境も厳しく、医学系大学への海外留学制度の支援も20年ほど前に無くなり、新たな医療職の確保や日進月歩の医療技術の取得も滞っているため、医療の質や医療知識・技術の強化など改善が必要な状況にあります。

### 2. パレスチナ赤新月社医療支援事業について

日本赤十字社は、2015年から中東地域代表事務所をネバノン・ベイルートに設置し、難民・避難民の方々の状況を見据えて、中長期的な人道支援を継続しています。そのような中で、2018年4月からパレスチナ赤新月社医療支援事業を開始し、2022年4月からは第2期が2025年3月までの予定でスタートしました。

概要はパレスチナ赤新月社が運営する5病院に日赤の医師・看護師を派遣して現地の医療スタッフに必要な技術指導を行い、安全・安心な医療サービスの安定的な提供とその質の向上を実現することが目的です。

2025年までにパレスチナ赤新月社レバノン支部の病院体制を改善し、病院スタッフが安全・安心に医療サービスを提供でき、その質が向上かつ安定的に維持されることを目標としています。

主な活動の柱は以下の5つです。

- ① 医療の質の標準化：委員会の定期開催、WHO 手術安全チェックリスト、救急外来のトリアージ・ER カルテ様式の導入
- ② 感染対応の向上：感染管理にかかる院内ラウンド、環境改善、感染管理委員会の開催
- ③ 多数傷病者受入体制構築：災害トリアージ訓練、机上訓練、実地訓練
- ④ 診断能力の向上：レントゲン読影トレーニング、ER へのエコー設置、エコートレーニング
- ⑤ 看護実践の質の向上：看護教育ワーキンググループ立ち上げ、OJT 実施